



「JTグループならではの多様な価値をお客様に
提供するグローバル成長企業」を目指して

2009年6月5日

日本たばこ産業株式会社

証券コード:2914

ひとの
ときを、
想う。



当資料取扱上の注意点

将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価等といった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因は多数あります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます(なおかかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません)。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更(増税、たばこ製品の販売、マーケティング及び使用に関する政府の規制等)、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、銘柄嗜好の変化
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動

「JTグループならではの多様な価値をお客様に提供するグローバル成長企業」

- ◆ 国内たばこ事業
「利益創出の中核」として、母国市場である国内市場において、全ての面で競合他社を圧倒する
- ◆ 海外たばこ事業
収益性あるいは市場シェアにおいて、リーディングカンパニーとしての地位を継続しうる市場を数多く保有し、「利益成長の牽引役」としての役割を果たし続ける
- ◆ 医薬事業
世界レベルの新薬創出により、高付加価値の事業を展開する
- ◆ 食品事業
世界水準の競争優位性を有する企業集団として、持続的な成長を実現し利益の増大を図る

JTグループミッション & JTグループWAY

JTグループミッション

私たちJTグループの使命。
それは、自然・社会・人間の多様性に価値を認め、お客様に信頼される「JTならではのブランド」を生み出し、育て、高め続けていくこと。

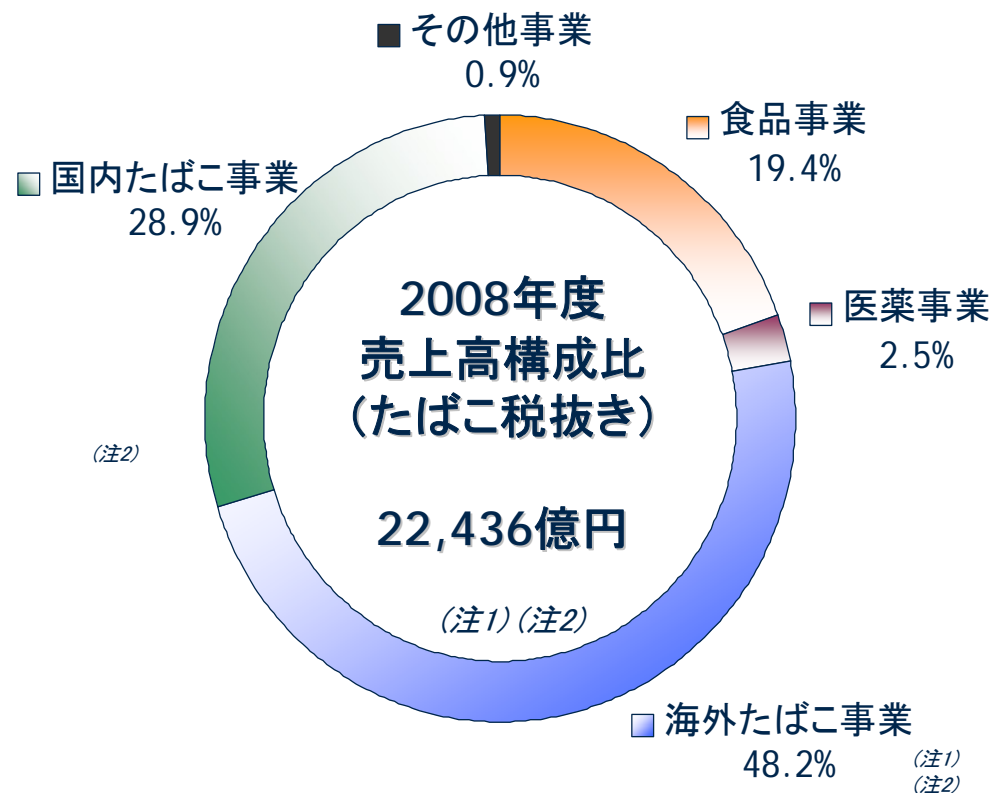
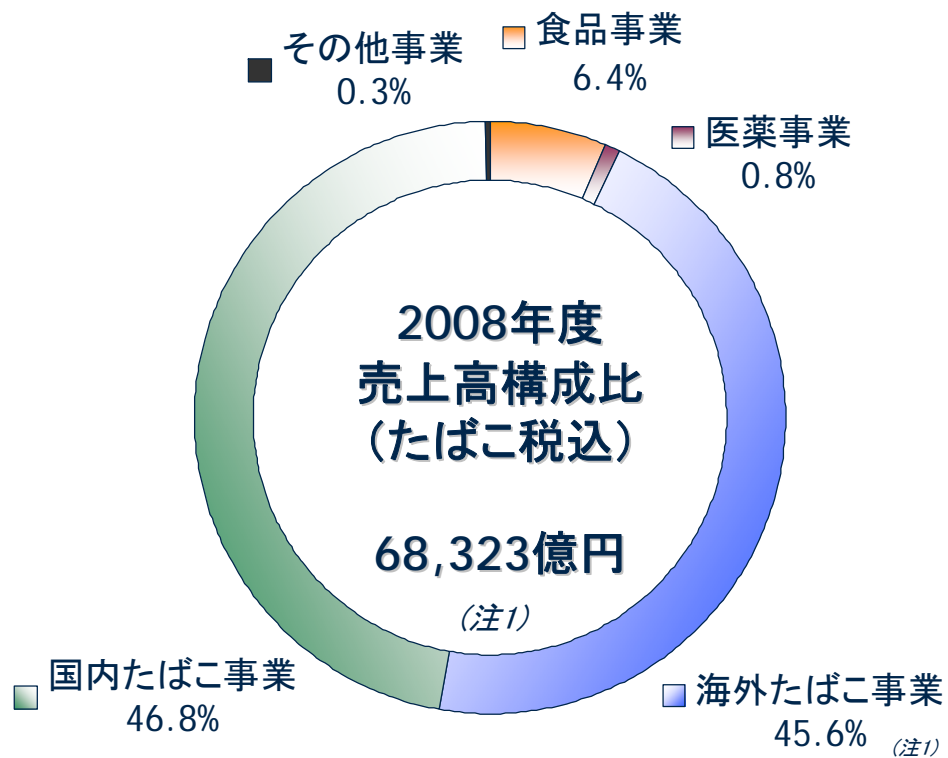
JTグループWAY

そのために、私たち一人ひとりが、

- ・お客様を第一に考え、誠実に行動します。
- ・あらゆる品質にこだわり、進化し続けます。
- ・JTグループの多様な力を結集します。

JTグループならではの多様な価値をお客様に提供する
グローバル成長企業

JTの事業別売上高の構成



(注1): 海外たばこ事業は、1-12月期の実績

(注2): 国内たばこ事業の輸入たばこ、国内免税、中国、その他を除く
海外たばこ事業の物流事業、PB、製造受託、その他を除く

2009年3月期 実績

海外たばこ事業におけるトップライン成長の継続に加えGallaherの連結等により、売上高、EBITDAは増収・増益
過去最高を達成

(単位: 億円)

	2008年3月期 実績	2009年3月期 実績	増減
税込売上高	64,097	68,323	4,225 (6.6%増)
税抜売上高*	20,683	22,951	2,267 (11.0%増)
EBITDA	6,020	6,462	441 (7.3%増)
営業利益	4,305	3,638	△ 667 (15.5%減)
経常利益	3,626	3,075	△ 550 (15.2%減)
当期純利益	2,387	1,234	△ 1,153 (48.3%減)

【参考: のれんの償却影響を除く主要利益】

営業利益	4,344	4,693	348 (8.0%増)
経常利益	3,665	4,130	465 (12.7%増)
当期純利益	2,425	2,289	△ 136 (5.6%減)

*国内たばこ事業における輸入たばこ、海外たばこ事業における物流事業を除く

2010年3月期 業績予想

中期経営計画「JT-11」の基点となる2010年3月期の業績予想

(単位:億円)

	2009年3月期 実績	2010年3月期 見込	増減
税込売上高	68,323	60,000	△ 8,323 (12.2%減)
調整後税抜売上高*	22,436	19,850	△ 2,586 (11.5%減)
EBITDA	6,462	4,750	△ 1,712 (26.5%減)
国内たばこ事業	2,722	2,460	△ 262 (9.7%減)
海外たばこ事業	3,379	2,090	△ 1,289 (38.2%減)
医薬事業	48	△ 125	△ 173 -
食品事業	170	180	9 (5.7%増)
営業利益	3,638	2,440	△ 1,198 (32.9%減)
経常利益	3,075	2,270	△ 805 (26.2%減)
当期純利益	1,234	1,000	△ 234 (19.0%減)

*国内たばこ事業における輸入たばこ、国内免税、中国事業、その他
及び 海外たばこ事業における物流事業、PB、製造受託、その他を控除

事業環境はこれまで以上のスピードと規模でより激しく、より厳しい方向へと変化していく

「JT-11」の位置づけ

環境変化を見据え、将来に向けた投資と不断の業務改善を通じ、力強い事業モメンタムを確たるものにしていく期間

引き続き、人的競争力の向上並びに業務遂行能力の強化を図る

JTグループならではの多様な価値をお客様に提供する
グローバル成長企業

「JT-11」の全社中期目標と各事業目標

【全社中期目標】

2009年度を基点とし、事業モメンタムで年平均5%以上のEBITDA成長を目指す

【各事業目標】

国内たばこ事業

2009年度EBITDA水準の維持を目指す

海外たばこ事業

2009年度を基点に、為替レート一定の前提で年平均10%以上のEBITDA成長継続を目指す

医薬事業

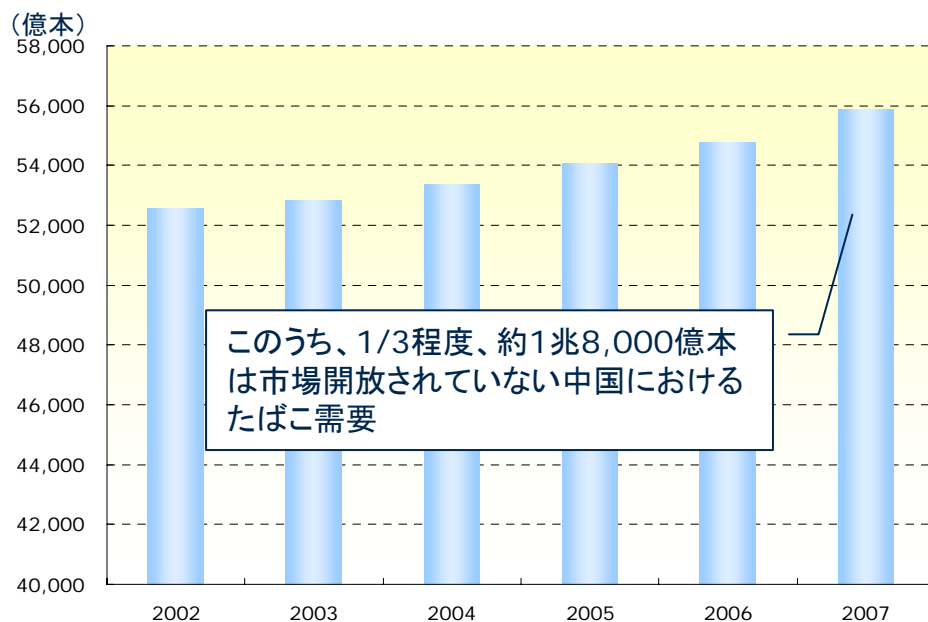
後期開発品の充実とR&Dパイプラインの強化を目指す

食品事業

2009年度EBITDA+100億円を目指す

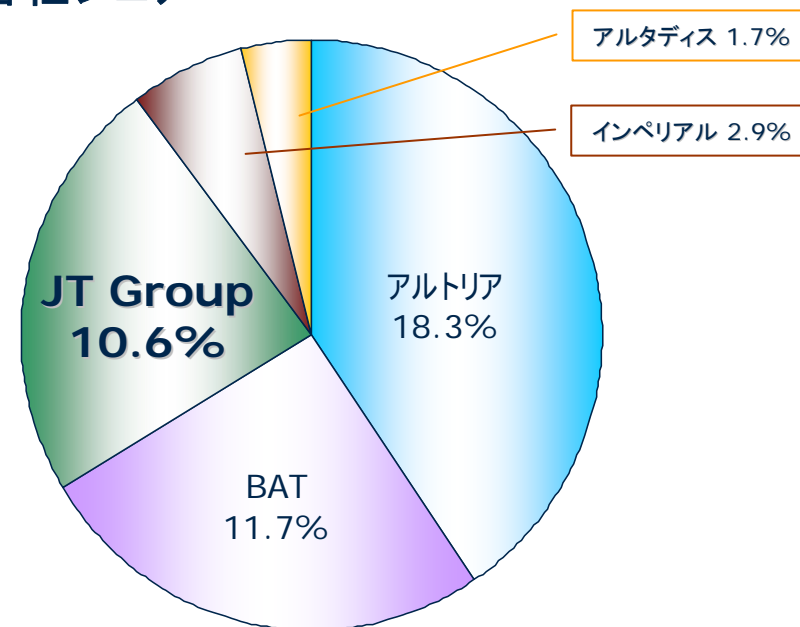
たばこ事業 -JTは、世界第3位のポジション-

世界のたばこ需要



出所:Euromonitor International

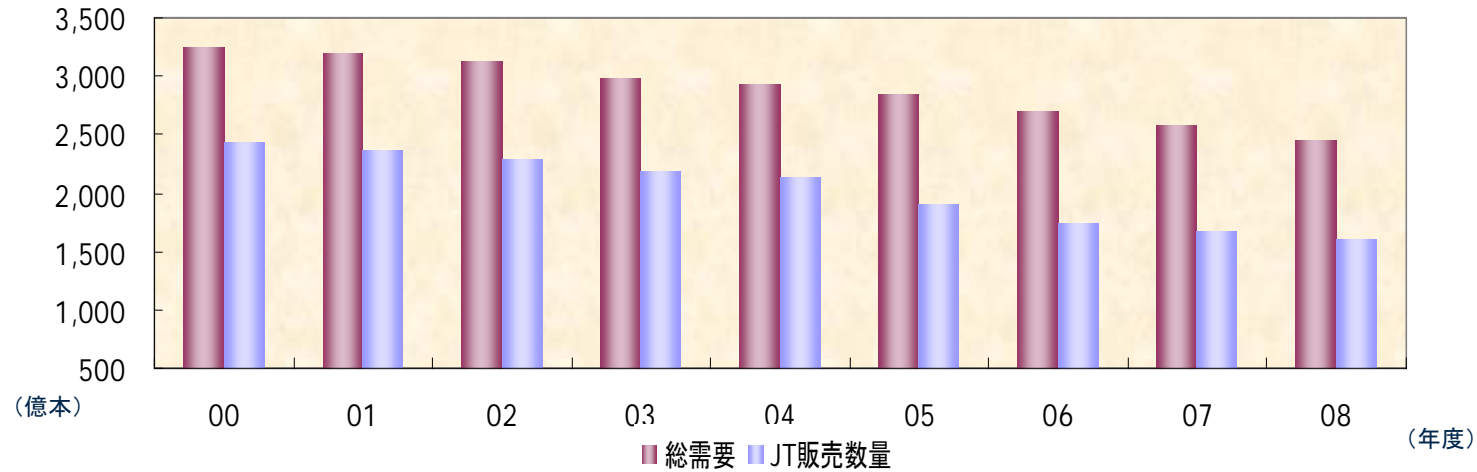
市場開放されている国における各社シェア



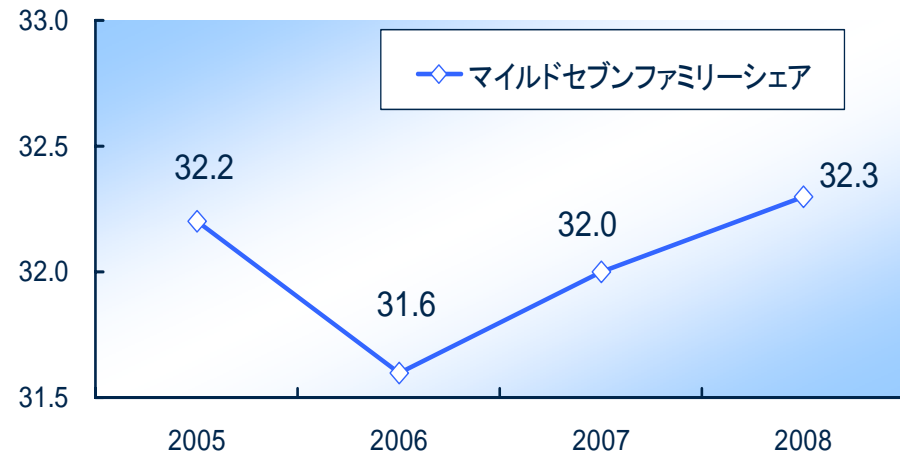
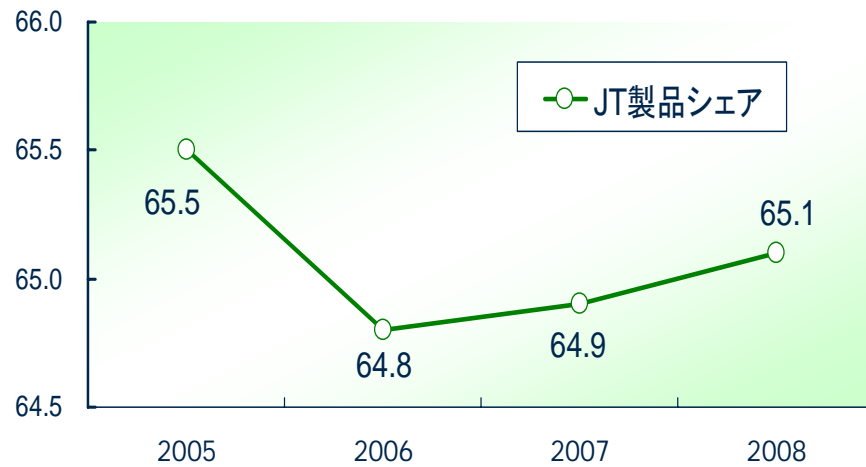
出所:Euromonitor International

国内たばこ事業 -事業環境-

■ 成人人口の減少、高齢化の進展、喫煙環境等の影響により、販売数量は減少傾向



■ JT製品の市場シェア



「JT-11」国内たばこ事業の事業方針

たばこを取り巻く環境の悪化、各種規制の進行等により総需要が減少する中でも、JTグループの安定的利益基盤としての役割を担う

◆ 強靱なブランドポートフォリオの構築

- ブランド価値強化に向けた各種施策の積極的な展開

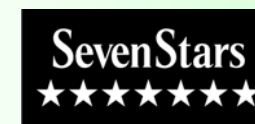


■ 圧倒的競争優位性の確保

- CVSを中心とした対面販路における圧倒的露出優位性の確保

■ お客様満足の最大化へ向けた付加価値、品質の更なる向上

- 品質向上に向けたあくなき追求、出荷保証体制の更なる強化



■ 不確実性の高い事業環境に適応可能、かつコスト効率性の高い事業運営体制の構築

- 競争力ある事業構造を構築
 - 盛岡工場、米子工場における製造を2010年3月末、小田原工場における製造を2011年3月末に廃止

2009年度EBITDA水準の維持を目指す

「JT-11」海外たばこ事業の事業方針

年々厳しさを増す外部環境をしっかりと認識し、引き続きJTグループの利益成長の牽引役を担う

◆ 質の高いトップライン成長の実現

- 卓越したブランドの構築および育成
- GFBへの継続的集中
- GFB数量成長と単価の改善によるマージン率の向上

◆ 収益基盤の拡充

- 主要市場の収益性向上
- 投資対効果を精査しつつ、将来の収益基盤となりうる市場群を育成

◆ 事業基盤の強化

- 生産性の継続的な向上
- 責任あるかつ信頼・信用されるメーカーとしての取り組み強化
- 事業の成長を支える人材の育成

【グローバル・フラッグシップ・ブランド（GFB）】



2009年度を基点に、為替レート一定の前提で年平均10%以上のEBITDA成長継続を目指す

海外たばこ事業 -販売実績(速報) 2009年1-3月期-

■ 海外たばこ事業の販売実績(速報) 2009年1-3月期

特殊要因を除けば、総販売数量は前年を上回り、GFBは成長を継続

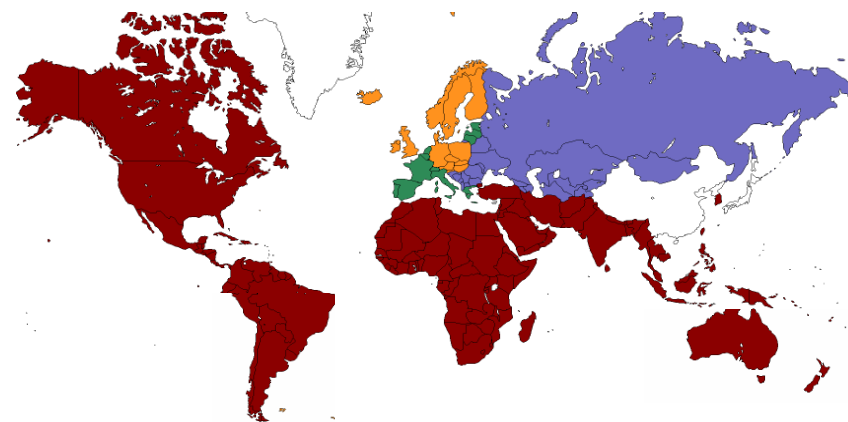
【2009年1-3月期 販売実績*】

	2009年3月期 1-3月期	2010年3月期 1-3月期
総販売数量* (億本)	1,024	1,009 (-1.4%)
GFB販売数量 (億本)	556	571 (+2.6%)

【2009年1-3月期 地域別販売実績*】

総販売数量 GFB販売数量

■ South & West Europe	+0.8%	+3.2%
■ North & Central Europe	+3.0%	-0.1%
■ CIS+	-3.6%	+1.4%
■ Rest of the World	-0.5%	+4.6%



* Private Brandを除き、Cigar/Pipe/Snus込み

「JT-11」医薬事業の事業方針

「国際的に通用する特色ある研究開発主導型事業の構築」、「オリジナル新薬を通じての存在感の確保」に努める

◆ 後期開発を含む臨床開発力の強化

- 開発推進の高度化への対応

■ 創薬研究力の更なる向上

- 重点領域は「糖・脂質代謝」、「免疫・炎症」、「ウイルス」、「骨」の4領域

◆ 導出入活動の充実と海外パートナーとの連携強化

- 導出機会は引き続き探索
- 早期の市場導入を重視した導入活動

《重点研究領域》



後期開発品の充実とR&Dパイプラインの強化を目指す

(参考) 医薬事業 臨床開発品目

■ 臨床開発品目 (2009年4月30日現在)

臨床開発品目 (2009年4月30日現在)

開発名	主な適応症	開発段階
JTT-705(経口)	脂質異常症	国内: Phase2
JTT-130(経口)	脂質異常症	国内: Phase2 海外: Phase2
JTK-303(経口)	HIV感染症	国内: Phase1
JTT-302(経口)	脂質異常症	海外: Phase2
JTT-305(経口)	骨粗鬆症	国内: Phase2
JTS-653(経口)	鎮痛、過活動膀胱	国内: Phase1
JTT-654(経口)	2型糖尿病	国内: Phase1 海外: Phase1
JTK-656(経口)	HIV感染症	海外: Phase1
JTT-751(経口)	リン吸着剤	国内: Phase2

JTT-705: 導出先のロシュ社においてPhase3に移行
(2008年4月同社公表)

JTK-303: 導出先のギリアド・サイエンシズ社においてPhase3に移行
(2008年7月同社公表)

JTK-305: メルク社へ導出することに関するライセンス契約を締結
(2008年9月公表)

MEK阻害剤: 導出先のグラクソ・スミスクライン社において臨床入り
(Phase1)(2009年3月同社公表)



「JT-11」食品事業の事業方針

飲料事業・加工食品事業・調味料事業の3分野に注力し、最高水準の安全管理に向けた取り組みを推進するとともに、将来の飛躍的な成長に向けた事業基盤の更なる強化を図る

◆ 飲料事業

- 基幹ブランド「ルーツ」の更なる強化
- 効率性の追求による強固な収益基盤の確立

◆ 加工食品事業および調味料事業(加ト吉グループ)

- 統合シナジーの追求
- 注力分野への戦力集中
- 一体感の更なる醸成 ※2009年度中に新社名へ変更

◆ 最高水準の食の安全管理の推進

- 「リスク低減に向けた取り組み」
- 「お客様への対応の強化」
- 「組織・体制の強化」



2009年度 EBITDA+100億円を目指す

◆ 事業投資

- 設備投資・研究開発投資・ブランドエクイティ投資等
- 外部資源の獲得

◆ 株主還元

中長期的な成長戦略の実施状況や連結業績見通しを踏まえつつ、資本市場における競争力ある株主還元を目指す

- 配当： 中期的に連結配当性向30%（のれんの償却影響を除く）を目指し、安定的・継続的な配当向上に努める
- 自社株買い： 経営の選択肢の拡充

◆ 流動性を確保しつつ、有利子負債を圧縮

企業の社会的責任 -地球環境問題への取り組み-

具体的な取り組み事例

其 JTでは地球環境問題を経営の最重要課題の一つと位置づけ、地球温暖化問題、廃棄物の削減等の様々な環境問題に対し、積極的に取り組んでいます。

環境負荷低減の取り組み

◆化学物質の適正管理を行っています

JTグループでは、事業所周辺の汚染防止や従業員の安全確保等の観点から、事業活動で使用する化学物質について、「化学物質管理ガイドライン」を定め、研究所や工場などで使用する化学物質の購入量、排出量、移動量を把握し、適正管理を行っています。PRTR法に基づき届出事業所は前年度から1事業所減り、5事業所となりました。

PRTR法届出物質の排出量・移動量 (JTグループ)単位: t

物質名	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
4-NO ₂ -C ₆ H ₄ -Cl	0.0000	0.0000	0.20	1.44	
クロロホルム	0.10	0.15	7.19	0.00	
アセトニトリル	0.04	0.00	7.55	0.51	
クロロホルム ジクロロエタン	1.20	1.30	0	0	
トルエン	0.00	0	0.00	0	
ダイオキシン (mg TEQ)	0.17	0	0.75	0	

◆PCB廃棄物の適正管理、処理を行っています

トランスやコンデンサ、蛍光灯安定管などのPCBを使用した廃棄物については、「PCB廃棄物処理規定」を策定し、管理・保管を行っています。2007年度は、保管中の廃任コンデンサ10台を処理しました。また、2007年度末の保管事業所はJTで29事業所です。今後も処理が完了するまでの間、適切な保管・処理を継続してまいります。

PCB廃棄物の保管状況 (JT)

保管所	トランス コンデンサ	蛍光灯 安定管	蛍光灯 安定管	その他
保管数(台)	010	01,520	404	001

◆土壌汚染調査について

JTでは、2003年度からすべての所有地を対象に土壌汚染調査を自主的に進めています。土地履歴を調査し、必要と認められる物件については土壌調査を行い、土壌汚染対策法の基準を超える物質が発見された場合は、関係行政機関に報告し、情報開示を行うことにしています。



◆自動販売機の実環境対応

自動販売機を廃棄する際は、金属部品から蛍光灯、電池にいたるまで分別回収を行います。素材別にリサイクルするなど、廃品の再資源化に取り組んでいます。飲料の自動販売機のオペレーター事業を行うJTグループの(株)ジャパンビレッジでは、環境対応型自動販売機の導入を促進しています。ジャパンビレッジでは、独自のチェックシートに基づく一定基準を満たした自動販売機のみを使用しています。また、缶販売機だけでなく、カップ機についても買断の電力消費ピーク時に省エネ運転を行うブレークカット機能を搭載し、使用電力の低減に貢献しています。またこの自動販売機については、使用電力の低減化に向け蛍光灯からLED照明への変更についての検討や自動販売機の省エネ化、環境への影響を考慮した設計開発に取り組んでいます。



◆資源有効利用の取り組み

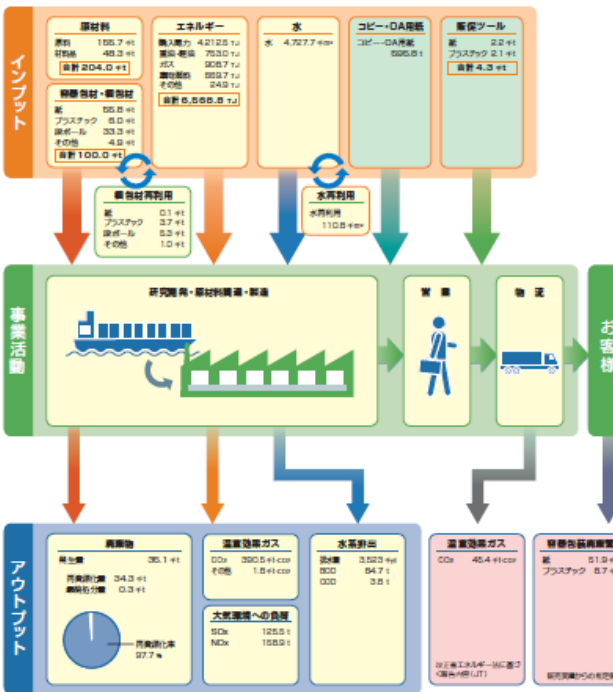
●包装材の環境対応

JTグループでは、包装材の環境対応を進めています。冷凍加工食品では従来のプラスチックトレーから、紙トレーの採用を進めることにより、資源の使用量を削減。興業時の包装材の減容化を実現しました。2008年製の新品では、12種のソースのハンバーグに紙トレーを採用しました。

事業活動にともなう環境負荷状況

◆JTグループ(国内)のインプットとアウトプット(2007年度)

原材料調達から製品が消費されるまでの「資源投入量(インプット)」と「環境への排出量(アウトプット)」について、まとめました。国内連携マネジメント対象会社20社を対象としています。



「CSR報告書2008」

JTの地球環境問題への取り組みの詳細につきましては、「CSR報告書2008」をご覧ください。



企業の社会的責任 -社会貢献活動への取り組み-

JTグループの社会貢献活動の基本方針



社会と共生する「良き企業市民」を目指す

目標：地域コミュニティの再生と活性化

社会福祉

文化・芸術

重点活動分野の中より、
地域社会の重要課題について
個々に取り組む

良き隣人として、事業地域の貢献活動

被災地域
への支援

環境保全



企業の社会的責任 –国内たばこ事業におけるリーディングカンパニーとしての責務–

- たばこを吸われる方と吸われない方の共存に向けた積極的な取り組み
- 「ひろえば街が好きになる運動」を日本全国にて展開
- 成人識別機能付自動販売機の導入



喫煙マナー広告



渋谷ハチ公前喫煙場所



株価動向と配当の推移

■ 株式分割の実施

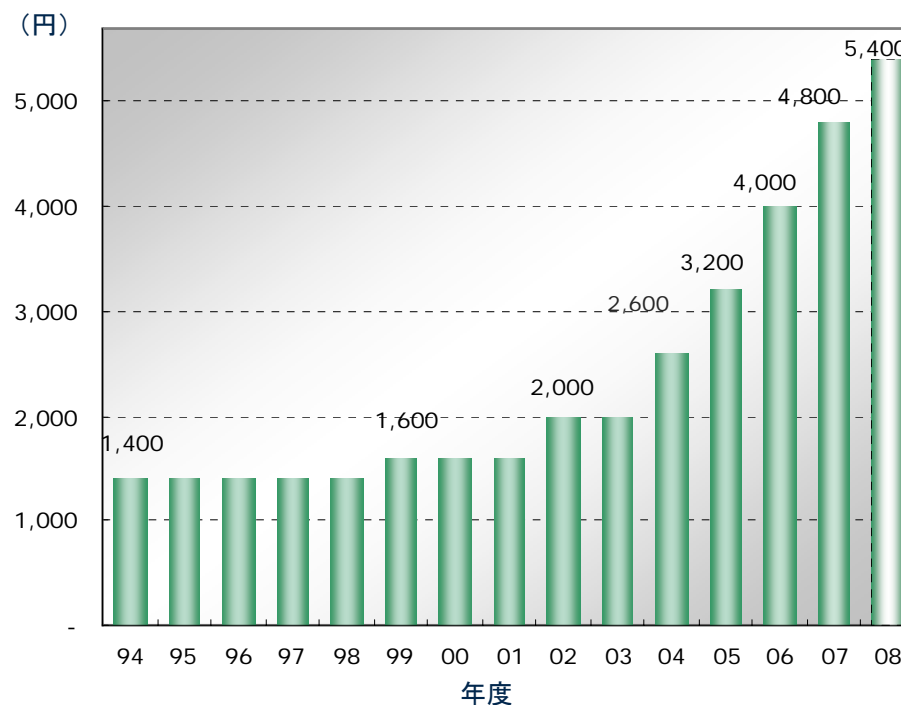
- ◆ 2006年4月1日、株式1株につき5株の割合で株式分割を実施

■ 株価動向※(月間、終値)



■ 配当※

- ◆ 中長期的な成長戦略の実施状況や連結業績見通しを踏まえつつ、資本市場における競争力ある株主還元を目指すことを基本方針とし、当面、連結配当性向30%を目指し、配当水準の向上を図る
- ◆ 連結配当性向の算定の基礎となる連結純利益からは、のれんの償却影響を除いた上で、連結配当性向30%の達成に努める



※2006年4月1日に1:5の株式分割を実施。2006年3月以前の株価、配当は遡及して修正。

株主優待

- ◆ 2008年9月から株主優待内容を変更
 - ▶ 年2回、当社グループ商品を選択制にて贈呈
 - ▶ 1株以上保有の株主様に2,000円相当の当社グループ商品
 - ▶ 5株以上保有の株主様に3,000円相当の当社グループ商品

株主優待品(2009年3月末現在の株主様、5株以上の場合)



① 飲料及び新潟県魚沼産こしひかり
ご飯詰め合せセット



② ご飯詰め合せセット



③ ジェントリースープ及び
中華調味料詰め合せセット

株主様向け広報誌の刷新

- ◆ 2003年度以降、株主様へお送りする業績報告書の内容を大幅に刷新し、年4回発行

業績報告書



ひとの
ときを、
想う。 JT

「JTグループならではの多様な価値をお客様に 提供するグローバル成長企業」を目指して

弊社に関する更に詳しい情報は：

<http://www.jti.co.jp/>



弊社の飲料製品は下記サイトにてお求めいただけます：

<http://www.shopjt.com/>

